

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4070800869
法人名	㈱エレガンス福岡
事業所名	グループホーム愛・あい (ユニット名 2F )
所在地	〒813-0043 福岡市東区名島3丁目29-5
自己評価作成日	平成24年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年11月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当GHは地域密着型サービスであることを自覚し「皆で入居者様と)その生活を支える」事を基本としている。その基盤として、入居者様とご家族、医療福祉関係者、地域の人々が相互にとって身近で親しい存在として関わり合うことの出来る環境作りに努めている。その関係性の中で入居者様の安全と安心を保証し、又入居者様が主体として自己の生活リズムを保ち、自由に疑問や医師を表明できるよう穏やかでリラックスした空間づくりにも配慮している。最も身近な存在である介護職員が心身ともに健全な状態で関わることでできるように個々の職員の特性や生活を大切に働きやすい職場を目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、交通の便が良く、近くに運動公園や史跡もあり、優れた環境の中にある。もともと3階建ての病院であったところをリフォームし、1階はデイサービス、2、3階部分が2ユニットのホームとなっている。開設後10年が経ち、地域との交流も、小学生の訪問や地域ボランティアの受け入れ等、盛んに行なわれている。又、ほとんどの利用者が近隣からの入居であるため、以前からの馴染みの関係を壊さないような支援を心がけ、自治会や老人会、民生委員、消防署、警察署、行きつけの店舗、スーパー等と連携を密にし、今後も地域の中で安心して暮らし続けることへの支援が期待できる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱和する。又、いつも目に付く場所に理念を掲げている。	毎日の買い物や散歩時に、職員は必ず地域の方々に挨拶をする等、理念の中の「地域とのつながりを大切にする」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との会議などを定期的に行っている。又、地域の廃品回収・小中学生が訪問したり、行事にお誘いしたりして交流を持っている。その他地域内での買い物や散歩時の挨拶・会話で地域の方と交流している。	地域の避難訓練や祭り等に参加している。事業所の敬老会には小学生が参加したり、地域のボランティアによるフラダンス等を披露してもらったりしている。又事業所の夏祭り、敬老会、家族会等には、自治会や民生委員等を誘っている。施設長が認知症サポーターキャラバンメイトを通して地域の啓発活動に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、認知症について勉強会をしている。ご家族には来設時に認知症やその支援方法について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で毎月の行事報告を行ったり、入居者状況を話している。	2ヶ月毎に、自治会長、民生委員、老人会会長、いきいきセンター職員等を招いて、利用者の状況、行事報告、地域行事の案内等が話し合われている。しかし参加予定者が当日欠席になる等で活発な話し合いが行なわれにくい会議になることもあり、課題がある。	参加しやすい時間の検討や、事前に話し合いたい課題を伝えたり、地域のボランティア、識者等にも声をかけたりして、幅広く意見を出してもらえる活発な意見交換の場となるための取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員に会議への参加を依頼し会議等で協力関係を築くように取り組んでいる。保護課の担当職員の定期的な面会がある。又入居者様を通し社協との連携を取っている。	運営推進会議のみならず、独居の方の相談から入居に至るケース等日頃から市の担当者や地域包括職員と連携を図っている。また、事業所の実情等伝えながら関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに沿って勉強会を行っている。毎日の業務中でも常に話し合い実践している。	事業所で定めているマニュアルに基づき勉強会を行い全職員周知している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、リスク回避のためベッドサイドレールを使用することもあったが、家族や関係者と適宜話し合いを持ちながら解消に至っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等でスタッフと勉強会をしている。意識的・無意識的な虐待防振の為に、ケアや関わり方の方法について随時話し合いを行なっている。又、入居者様の心身の様子観察をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議において、地域包括支援センター職員の方より説明が行われ、会議等でスタッフに報告したり、社外研修を受けたスタッフが研修報告を行っている。又入居者様が成年後見制度を利用するに当たり、弁護士やいきいきセンター担当者との話し合いを行い、スタッフに周知している。	年間研修計画に組み込まれており、それぞれの制度の概要等、外部と内部研修を通じて学ぶ機会を設けている。研修に参加できなかった職員は伝達することで周知に努めている。制度を利用している方もおり、関係者と連携に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事前に関係機関より情報収集し、入居者様・ご家族と面談を行い不安や疑問点が解消できるよう話し合いを行っている。退去時にも主治医の意見を聞き、ご家族とも協議している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中で聞いたり気付いたりしたことを毎朝の申し送り時や会議において話し合いをしたり、面会や家族会の時にお聞きし、スタッフ会議にて改善に取り組んでいる。	訪問の際や家族会の際に意見や要望を表現してもらえるように努めている。出された意見や要望で、歯科受診に付き添ってほしい等があり、検討を図り意向に沿うよう取り組み、ホーム運営に活かされている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡・相談をこまめに行い、気付いたりしたことを毎朝の申し送り時や会議において話し合いを行い改善に努めている。	朝礼時や会議の際に職員の意見を聞く機会を設けている。新しい利用者が不安なく過ごせるように職員からの意見を反映させ業務の見直しを図ったりしている。4ヶ月毎に個別面談を行い、普段出づらい意見も聞くことが出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見の聴取をこまめに行い、適宜職場環境の改善に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用に当たっての制限はない。職員の能力や特性に合わせて、やりがいを見出せる仕事を任せている。	職員の募集・採用にあたり性別や年齢を理由に採用から排除していない。19歳から50歳代まで幅広く採用している。資格取得に向けて講習会を開催する等、支援体制も整い、職員個々が能力を発揮して働く環境を整えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対する接遇や尊厳の保持について実践されるように常日頃から指導している。又勉強会を持っている。	朝礼や会議等で、利用者に向けたまま話しかけない、恥ずかしい部分を隠す等、具体的に話し合いを行なうようにしている。又、外部研修で勉強した職員が伝達研修を行なう等、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や各種勉強会への参加を募ったり、資格取得の為に勉強会を行っている。又日々の勤務の中でもアドバイス等を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の会議や交流を図っている。又、セミナー・研修会で他の事業所との交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学やこちらから訪問し面談を行い、コミュニケーションを図り要望を聴くようにしている。又、入居後は話し合う機会を多く作り、ご本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族との面談を行い、不安や要望などを聞き相談に応じている。入居当初は密に電話連絡を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってどのようなサービスが必要か、ご本人・ご家族と一緒に考えて対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ち尊敬・感謝を忘れず共に過ごす生活の中で、相談したりアドバイスをもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り協議して決めている。家族会や誕生日会等と一緒に参加でき、楽しめる雰囲気作りに努めている。面会時に日常の様子をお伝えしている。又、毎月「お便り」と一緒に入居者様の1ヶ月の様子をまとめ、ご家族に送付しお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来所は自由であり、来所を歓迎することでその関係が継続されるように努めている。又、電話の取次ぎも行っている。	友人や知人等いつでも訪問者を受け入れている。また、事業所近くにある商店街への外出同行支援や、職員対応が難しい時は家族の協力を得て眼鏡店や理髪店へ行く等、今までの関係が途切れないよう支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人のペースを大切にしている分、関わりが少ない方もいる。同じ時間を共有し歌やレクリエーション、外出、散歩等で関係を深められるように努めている。又、食事の座席等は入居者様の関係性を見ながら、スタッフで話し合い決めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや面会・入院退去時の面会、お通夜・葬儀への参列を行っている。ご家族とは、手紙や電話で相談等を受けている。又、来福された折にホームに立ち寄られることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の意向を把握できるよう努めている。過去の生活歴に思いを巡らせ、毎月全入居者様のカンファレンスを開催し、職員が共有出来る様に努めている。	入居時の情報と共に、センター方式を使って一人ひとりを把握するようにしている。日頃利用者が希望や思いを話していることを詳細に記録し、できることは直ぐに実践するようにしている。月1回のカンファレンス会議では利用者の意向や気付き等を話し合い、情報を共有できるようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族より情報提供して頂いたり、日々の関わりの中でご本人より伺いスタッフ間で共有出来る様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を行い、申し送り時やケアカンファレンスの実施により、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・申し送り等で常にスタッフ間の意見交換を行い、ご本人・ご家族・主治医の意見を聞き、カンファレンス・会議で総合的に協議し、介護計画を作成している。	介護計画書とは別に個別援助計画書、手順書を作成している。また「ケアの変更、病院・家族との連絡、カンファレンス決定事項」の書類を活用し、いつでも計画の変更に対応できるようにしている。月1回のカンファレンス会議で現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活状況を記入し、変化がある場合にはスタッフ間にてカンファレンスを実施し評価しながら介護計画に反映させている。又、実践できるよう申し送り等を行い、必要時個人ノートを作成している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食や買い物同行を行ったり、カルチャースクール参加、アニマルセラピーの訪問・訪問理美容の提供をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署に協力要請し避難訓練を行ったり、幼稚園の運動会や公園のイベントを参観している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の意向によるかかりつけ医に受診できるよう支援している。往診も受けられるが、受診時はご家族の協力もある。	入居時に提携している訪問診療機関を説明して、本人や家族に納得してもらっている。本人・家族の意向を尊重し、以前からのかかりつけ医を受診する利用者もいる。その際受診の予約等は職員が行ない、家族が同行できない時は職員が同行している。情報は家族からの情報とは別にかかりつけ医より確実な情報を得る為、緊密に連絡を取り合っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医又は看護師と24時間相談できる体制をとっている。歯科・皮膚科・眼科の往診もある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室のソーシャルワーカーや医師、病棟看護師と相談している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に意向を伺い希望に応じられるように支援している。	入居時に看取りに関する書類を交わし、本人・家族に了解を得ている。終末期に家族の気持が変化することをふまえ、柔軟に対応している。重度化した場合は、かかりつけ医の指示により救急車で搬送、家族が到着するまで付き添ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを基に連絡や対応が行える体制を整えている。又、避難訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に於いて災害時の協力要請を行っている。スタッフの勉強会で対策について確認している。	併設の事業所と共に、年2回日中と夜間を想定した火災訓練を行っており、そのときは地域の人に呼びかけて消火器訓練も行っている。地域での一員として、災害時の連絡網も整備されている。火災だけでなく風水害、地震等の災害に対して、水や食料等の備蓄がなく、持ち出し品等が準備されていない。	有事に備え、災害時用の水・食料を備蓄し、書類や利用者の生活必需品等を持ち出しやすいように工夫することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということや、言葉かけや対応については、誇りやプライバシーを損なわないよう配慮し、特に入浴・排泄介助時には気をつけている。又勉強会で学ぶことにより、スタッフ自身の振り返りの場としている。	排泄や入浴で必ずドアを閉める等、利用者のプライバシーを損なわないよう配慮がなされている。尊厳を損なわない声かけ等、月1回の会議の中で話し合ったり、職員はお互いに声かけの仕方についてその都度最善の言い方になるよう注意している。個人情報書類は常に事務所のロッカーに保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちを大切に、分かりやすい言葉掛けをしている。選択しやすい問いかけを行い、自分で決めることができるよう支援している。又、表現することが難しい方は表情や行動の変化に気配りし、気持ちを汲み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活パターン・リズムやその時の状況を把握しながら、ご本人の自らの行動を優先し希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時、訪問理美容を利用して頂いている。入浴時の髭剃りや女性の方でお化粧を希望される方の支援をしたり、毎日の服装もご本人の決定を優先している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを普段の会話の中で聞き、メニューに取り入れている。下ごしらえ・盛り付け・配膳・味付け・後片付け等一緒に行っている。	献立は利用者からの情報や料理本を元としている。利用者が食べられない場合には、その人の好きなものと取り替えることもある。利用者と一緒に買い物に行ったり、調理・配膳・片付けにも参加してもらっている。おやつは利用者と一緒に手作りをして、食事と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の状態に合わせた形態で提供し、摂取量のチェックを行っている。必要に応じ医療機関との連携を取っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご入居者様の状態に合った方法で口腔ケア・義歯洗浄・うがいをやっている。又、必要な方には歯科医による口腔ケアの支援も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することでトイレ誘導や夜間のポータブルトイレ使用等で自力で排泄できるよう支援している。	以前はトイレ以外で排泄する人がいたが、排泄チェック表を使用しトイレ誘導をするようになって収まった。夜間トイレが間に合わない人にはポータブルトイレを利用する等、その人に合った排泄方法を工夫し、オムツは使用しなくなった。医療と連携しながら、水分や食事・運動の工夫で排便の調整もスムーズになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、排泄状況を把握すると共に、日頃より入居者様に合わせた水分補給・食事の工夫・運動等を行い、自然排便ができるように支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で順番は決めているが入居者様のご希望に合わせて柔軟に対応している。又、音楽・会話等で楽しんで頂ける様工夫している。	毎日湯を沸かし、入りたい人には毎日入ってもらっている。入浴を嫌がる人には、声かけの仕方を工夫したり、職員が入れ替わり声を掛ける等して、週2~3回は入ってもらっている。入らない時は、足浴を行なっている。菖蒲湯やゆず湯等、季節の入浴剤等も使用し、入浴が楽しめるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・入床時間は個別に対応し、日中も居室で休まれたり、ソファーで傾眠されたりしている。日中は無理のない程度に運動・散歩等を促し、居室内の環境も御入居者様に合わせて整え夜間安眠できるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を経過記録のファイルに綴じ、いつでも見れるようにしている。変更時には個人カンファに記入し申し送りで伝えスタッフ間で情報を共有出来る様している。疑問はかかりつけ医や薬剤師に相談している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中の特性を活かし、家事・レクリエーション等を個別に声掛けしている。又、外出等で気分転換が図れるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩は毎日行っている。買い物同行、ドライブ等ご本人の希望を確認し、その時の状況を見ながら、お一人お一人にあった外出を支援している。	利用者は職員同行で一日おきの買い物と散歩に出かけている。気分が向いた時に外出する人に対しては、否定せず職員が同行し散歩している。月1回のドライブの時は家族の協力も得ている。希望に合わせて毎月外食している利用者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理が出来る方は少額を所持されており、文具・菓子類・お化粧品等購入されている。管理の難しい方は、預かり金の中からその都度渡して購入して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるように支援している。手紙は書かれるとポストに投函している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花や壁に張り紙等入居者様と一緒に作った作品を飾っている。表札やトイレ等の表示等混乱を招かない工夫をしている。又、夜間は最小限の灯りや音になるように配慮している。	元病院であった為、画一的な建物であるが、利用者職員とで製作した季節感あふれる飾りや絵画・貼り絵・養生訓等を飾って楽しい雰囲気となっている。廊下には物を置かず、幅広く歩行しやすくしている。リビングには、ゆったりしたソファがあり利用者が集まって談笑していることから、その雰囲気のよさが伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、居室を利用して、独りで過ごしたり、テーブルの座席配置等で気の合った入居者様同士過ごせるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入して頂き、身体状態に合わせて配置を行い、好みの物を飾ったり等安心して過ごして頂ける様工夫している。	家具やベッドを自宅から持ち込んでいる。居室の飾りもそれぞれの好みを反映し、カレンダーや額・写真や花が飾られている。本人が自分で書いた表札を居室の出入りに掛け、个性的で楽しく分かりやすい雰囲気になっており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が作成したカレンダー等を壁面に飾って、達成感を味わって頂けるようにしている。入居者様同士での会話にも繋がっている。又、居室の表札やトイレ表記すること等により、ご利用者様が自由に行動することが出来るように工夫している。		